１ 研究主題

自ら学ぶ力の育成

～「主体的・対話的で深い学び」の視点からの国語科の授業づくり～

〈主題設定の理由〉

（１）これまでの研究

本校では，一昨年度から研究主題を「自ら学ぶ力の育成」，副題を『主体的・対話的で深い学び」の視点からの国語科の授業づくり』として，新学習指導要領に基づいた国語科の授業づくりについて研究を進めてきた。具体的には,「単元で身に付けたい資質・能力を明確にした単元構想」,「最適な言語活動の設定」の２つを通して,「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善についての研究を進めてきた。

研究内容は,

「身に付けたい資質・能力を明確にした単元構想の工夫」

「最適な言語活動の設定」

「日常的な活動や環境づくり」

の３つである。「身に付けたい資質・能力を明確にした単元構想の工夫」は，単元で付けたい力を明確にし，単元構想図を作成するようにした。これにより，単元のまとまりを見通した学びや,「見通し」「振り返り」の場面を設定し，児童が主体的に学ぶ授業を想像していくようにした。「最適な言語活動の設定」は,「言葉による見方・考え方」を働かせ，言葉で理解したり表現したりしながら自分の思いや考えを深めることができる言語活動を設定するようにした。その際，対話の前に自分の意見を持たせたり，必要感や「身につけさせたい力」に結び付く明確な目的のある交流をさせたり，明確な目的のある「対話的な学び」の場面を設定し，考えを深めたり広げたりするための手立てを工夫したりしていくようにした。「日常的な活動や環境づくり」は，並行読書や発達段階に応じた読書の質と量を確保していくなどの読書活動の充実や，日々の日記や「読もっか」への投稿，視写などの書く活動を継続して行うようにした。また，授業や集会などにおいては，これまでも取り組んできた「国府小版伝え合うスキル」を意識した発表などを取り組んできた。

さらに，昨年度は,「授業づくり」に重点を置いて国語科の研究を行った。「授業づくり講座」の拠点校として,他校の先生や講師と一緒に意見を出し合って単元計画を考えたことで，どうすれば付けたい力を効果的に身に付けさせることができるのかについて学ぶことができた。

（２）研究成果や課題

研究を進めていく中で，次のような成果と課題が見えてきた。

＜成果＞

① 「単元構想図」

・単元構想図を用いたことで，児童が単元のゴールと付けたい力をいつも意識して授業に臨むことができた。

・児童とともに作り上げる単元構想図にしてことで,児童が意識して見るようになり，より効果的に活用することができた。

・書き込むだけでなく，資料を張り付けたり，授業の様子を張り付けたりしたことも効果的であった。

② 「言語活動の設定」

・どのような言語活動にすれば付けたい力が身に付くのかを考え，リーフレットや解

説書，音読（朗読）発表会やクイズなど様々な活動を取り入れることができた。
・言語活動を取り入れるタイミングについても様々な見方から考え，習得してから活用するのか，習得しながら活用するのかなど，いろいろなアプローチの仕方があることを知ることができた。
・他の学年へ発表を行うことで，相手意識をもって工夫して活動に取り組むことができた。

③　「単元計画」
・どのような単元構成にすれば付けたい力が身に付くのかをブロックはもちろん，授業づくり講座などを通して，学校全体や外部の先生と一緒になって考えたことで，これまで見えなかった構成などに気付くことができた。
・相手意識をもって授業を行うことで，そのためにはどんなことが必要かを考えて授業を展開することができた。
・言語活動で身につけさせたい力が身につくような単元構想を行った。

④　「書く活動」
・日記などの文を書く際，ためらわずに書くことができるようになった。これは，書く活動を続けたこと，書くモデルを用意したこと，条件を出してそれを使って文を書くようにしたこと，書けたことを褒め，全体で共有したことなど，様々な要因がある。今後は，書く内容の質を高めていけるようにしていきたい。
・「振り返りの書き方」を掲示したことで，短い時間でも集中して書けるようになった。
・書くことが苦手な児童に聞き取りを行うことにより，文章を組み立てることが苦手でも会話の中からいい言葉を拾うことができた。
・登場人物の気持ちや振り返りなどの書く活動では，多くのことを書くことができるようになった。

⑤　「読む活動」
・朝読書は集中して取り組むことができているし，本の内容も小説など活字のものが多く，読書の質は高まってきた。
・朝読書や活動が終わった後に読書をするなど読書に対する意欲が高い。

⑥　「伝え合うスキル」
・まほろば集会では，「国府小学校伝え合うスキル」を意識して感想を発表することができたり，発表内容をみんなで考える時間を取ったりしたことで，発表の内容も声も質が上がってきている。
・まほろば集会では各学年の目標を意識して発表することができた。

⑦　「校内研修（研究授業）」
・どうすれば付けたい力が身に付くのか，授業はもちろん単元計画から研究したことで，より単元を通して身に付けさせる，学ばせるという意識を持つことができた。
・ブロックで教材研を行い，授業のポイントをブロックで説明したことにより，授業者一人ではなく，ブロックとしての研究という意識を持つことができた。
・授業づくり講座に参加したことで，他校の先生や講師の先生からたくさんの意見を頂き，幅広い観点からの事後研が行えた。
・研究授業で学んだことを全教員で共有し，日々の実践に生かしていくことができた。（付けたい力，一読文の活用，単元計画の工夫，教科書に返り叙述を基に根拠をもって説明する，板書写真など）

＜課題＞

①　「単元構想図」

・なし。

② 「言語活動の設定」

・言語活動がワンパターンになりがちだったので，今後，児童が主体的に取り組むことができる活動を考えていく必要がある。

・言語活動がクイズ，リーフレットなど偏りがちだった。付けたい力が有効に付く内容の言語活動を考えていく必要がある。

・成果物を作る活動がメインとなってしまい，その単元で付けたい力が十分身に付いたのか不安になることがあった。

③ 「単元計画」

・なし。

④ 「書く活動」

・振り返りの内容などには個人差があり，あまり書くことができない児童もいる。

・振り返りの書き方を見ても自分の言葉で表現することができない児童もいる。

⑤ 「読む活動」

・たくさん本を読める児童とそうでない児童との差がかなりあり，目標冊数に届かない児童も見られるなど，読書の量としてはまだまだである。

⑥ 「伝え合うスキル」

・学級ではあまり「国府小学校たたえ合うスキル」を意識した発表ができていないため，今後は学級から鍛えていくことが必要である。

⑦ 「校内研修（研究授業）」

・事前研の際，単元観，児童観は授業者，授業のポイントはブロックから，と提案を分けたが，指導計画などもブロックからの提案とすることができるのではないか。また，説明が十分でなく，分かりにくいときがあったので，ブロックでしっかり打ち合わせをして事前研に臨むようにできればよかった。

（３）研究成果や課題（児童に関すること）

本年度の全国学力・学習状況調査や県版学力調査，また，標準学力調査の結果，ほとんどの学年で全国平均を上回っているが，課題が残った学年もある。

具体的には，算数においては，

・問題場面の理解が不十分で正しく解答できていない

・内容に合った算数用語を用いて助詞などを正しく使って表現できていないことに課題が見られた。国語においては，

・条件を満たして書く力

・場面の様子を読み取ったり，段落の内容を理解して文章を読み取ったりすることに課題が見られた。また，昨年度末に全校児童を対象に実施した学校評価アンケート（表１）の結果，生活面，体力面においては，指導の重点化をする中で改善傾向が見られた。しかし，

・授業中に積極的に発表する

・大きな声で返事ができる

・自分のよい所が１つでもあることに気付いた

・困ったことが起こった時，先生に話している

など，基本的な学習習慣，自尊感情の面などでは課題が見られた。特に，大きな行事等で場の雰囲気が変わると，当たり前のことができなくなる場面もまだ見られる。本校は小規模であるがゆえに，慣れ合いの関係に陥りがちである。場が変わろうと，自ら考え，正しく判断し，行動できる力の育成は常に本校の課題と言える。さらに，心の面においても，児童の心を耕し，児童がより関わり合い，互いに認め合いながら活動できるようにしていくことが大切である。今後も，児童自身が問題に気付き，解決に向けて行動ができるよう，具体的な取組を見直していかなければならない。

（表１）令和３年度　全校児童用学校評価アンケートより

	そう思う	だいたいそう思う
1　学校で楽しく過ごせている。	89.0%	11.0%
2　授業がよくわかる。	97.8%	2.2%
3　先生や友達の話を聞くことができている。	96.7%	3.3%
4　授業中，発表をよくしている。	81.3%	18.7%
5　困ったことがおきた時，先生に話している。	85.7%	14.3%
6　先生は自分たちのことをわかってくれている。	96.7%	3.3%
7　自分から大きな声であいさつができている。	86.8%	13.2%
8　大きな声で返事ができている。	84.6%	15.4%
9　トイレのスリッパやくつのせいとんができる。	97.8%	2.2%
10　そうじを一生懸命できている。	96.7%	3.3%
11　運動が好き。	96.7%	3.3%
12　自分のよい所が１つでもあることに気付いた。	85.7%	14.3%
13　将来の夢や目標をもっている。	95.6%	4.4%
14　読書が好き。	87.9%	12.1%
15　宿題を忘れず出せている。	92.3%	7.7%
16　学校でのことを家の人に話す。	84.6%	15.4%

（４）本年度の研究

①　学校経営計画の３部会

学力向上を図るには，授業改善が欠かせない。また，学力を支える体づくりや基本的な生活習慣，学習習慣の定着，心の教育も大切である。そして，児童の実態を見取り，実態に合わせた指導の在り方を考えていくことも大事にしたい。

そこで，学校経営計画に基づき，

・自分の思いや考えを伝え合い，高め合う授業づくりを推進する「技づくり部」

・規範意識や子ども同士の関わり，心の成長を推進する「心づくり部」

・生活および学習習慣を見直し，体力・食育を推進する「体づくり部」

の３部会を設定し，全教員で取組を進める体制を取ることとする。

これらの部会には学年を越えたメンバーが所属することとし，１０年以上経験のあるＳ３教員による若手育成にもつながることを期待している。

②　研究授業等に関すること

過去２年の研究の成果や課題を踏まえ，本年度も，研究教科を国語科とし，学習指導要領に基づいた「主体的・対話的で深い学びの視点」からの授業づくりについて研究を進めていく。なお，国語科の目標は次のように示されている。

言葉による見方・考え方を働かせ，言語活動を通して，国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)　日常生活に必要な国語について，その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

(2)　日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，思考力や想像力を養う。

(3)　言葉がもつよさを認識するとともに，言語感覚を養い，国語の大切さを自覚し，国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

また，「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に関する配慮事項として次のように示されている。

単元など内容や時間のまとまりを見通して，その中で育む資質・能力の育成に向けて，児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際，言葉による見方・考え方を働かせ，言語活動を通して，言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。

なお，解説には，次のように示されている。

主体的・対話的で深い学びは，必ずしも１単位時間の授業の中で全てが実現させるものではない。単元など内容や時間のまとまりの中で，例えば，主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか，対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか，学びの深まりをつくりだすために，児童が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか，といった視点で授業改善を進めることが求められる。また，児童や学校の実態に応じ，多様な学習活動を組み合わせて授業を組み立てていくことが重要であり，単元のまとまりを見通した学習を行うにあたり基礎となる知識及び技能の習得に課題が見られる場合には，それを身に付けるために，児童の主体性を引き出すなどの工夫を重ね，確実な習得を図ることが必要である。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めるにあたり，特に「深い学び」の視点に関して，各教科等の学びの深まりの鍵となるのが「見方・考え方」である。（略）

言葉による見方・考え方を働かせるとは，児童が学習の中で，対象と言葉，言葉と言葉との関係を，言葉の意味，働き，使い方等に着目して捉えたり問い直したりして，言葉への自覚を高めることである。

これらの点を踏まえ，具体的には，「単元で身に付けたい資質・能力を明確にした単元構想」「最適な言語活動の設定」を通して，「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善についての研究を進めていく。なお，研究授業の際には，講師を招聘して研修することとしているが，招聘ができない場合は，教員の授業力向上にもつながる観点から，本校の教員が講師を務めることも取り入れる。

また，これまで実施してきた学びを明日からの実践に取り入れるためのレポートも続けていき，それを再び教職員に提示し，次回の研究授業や日々の実践に生かすようにすることにより，研究授業と日々の授業や次の研究授業をつなぐ工夫をしていきたい。

また，今年度も，教材研究，研究授業の日程をオープンにし，他校の先生や中学校の先生にも参加していただき，多様な意見を出してもらうことで研究をより高めていきたい。教材研究から講師の先生に来ていただき，教材研究や評価の仕方などを教えていただきながら全教員の学びとしていきたい。

さらに，今年度は，ブロック教材研を行い，教員の指導力の向上を図っていく。ブロック教材研とは，1つの教材を低学年，高学年のそれぞれのブロックで同時に教材研究を行い，指導計画，本時の展開を考え，発表し，より良いものを指導案に採用していくものである。１つの教材を１から考えることで，全員が自分事として考えられ，教材研，研究授業の学びがより効果的になること，そして，ブロックで教材研を行うことで，若年の先生はベテランの先生の教材研究のやりかたを学ぶことができ，ベテランの先生は若年の先生が研修等で学んだことを知ることができるなど，世代間での相乗効果も考えられる。時期は夏休みに行い，それぞれのブロックの教材を1つずつ，合計２つのブロック教材研を行うようにする。

③　研究内容

ア「身に付けたい資質・能力を明確にした単元構想の工夫」

・単元で付けたい力を明確にしながら単元構想図を作成する。

・単元のまとまりを見通した学びや「見通し」「振り返り」の場面を設定し，児童が主体的に学ぶ授業を創造する。

イ「最適な言語活動の設定」

・「言葉による見方・考え方」を働かせ，言葉で理解したり表現したりしながら自分の思いや考えを深めることができる言語活動を設定する。

・相手の意見を聞き，受けとめる姿勢を育てる。（学級の雰囲気）

・対話の前に自分の考えを持たせる。（自己決定の場）

・必要感や「身につけさせたい力」に結び付く明確な目的のある交流をさせる。

・明確な目的のある「対話的な学び」の場面を設定し，考えを深めたり広げたりするための手立て（問い返しのある学び）を工夫する。

ウ　日常的な活動や環境づくり

・読書活動を充実させる。（並行読書，発達段階に応じた読書の質と量の充実）

・継続して，書くことに取り組む。（日々の日記，漢字タイムでの視写など）

・授業や集会などにおいて，これまで本校で取り組んできた「伝え合うスキル」を目指して取り組む。

「国府小学校伝え合うスキル」

	聞く	話す	関わり合う
1年	・話し手を見て聞く。	・よく聞こえる声で，聞き手の顔を見て話す。	・話し手の言うことに反応する。
2年	・話し手を見て考えながら聞く。	・よく聞こえる声で，聞き手の顔を見て話す。 ・話したい事柄を考えて，順序よく話そうとする。	・話の内容に応じてうなずいたり，意見を返したりする。
3年	・自分の考えと比べながら聞く。 ・話し手が何を伝えようとしているのか，内容を考えながら聞く。	・よく聞こえる声で，聞き手を意識して話す。 ・自分の考えが相手に伝わるように，理由や事例を挙げて話す。	・友達の意見に絡めて，自分の意見を話す。
4年	・自分の考えと比べながら聞く。 ・大事なことや話の中心に気を付けて聞く。	・よく聞こえる声で，聞き手を意識して話す。 ・目的に沿って，内容がわかりやすいように筋道を立てて話す。	・相手の話を受けて，主題からそれずに話す。 ・互いの考えの違いや同じところを考えながら話し合う。
5年	・話し手の意図を正確に聞き取り，自分の考えとの共通点や相違点に気付く。	・よく聞こえる声で，聞き手の反応を見ながら話す。 ・組み立てを考え，主旨のはっきりした話をする。	・相手の考えや意見を尊重しながら話し合う。 ・その場の状況に応じて伝え方を工夫する。
6年	・話し手の意図を正確に聞き取り，自分の考えを明確にする。	・よく聞こえる声で，聞き手の反応を見ながら話す。 ・意図や根拠を明らかにして，考えを述べる。	・相手の立場や心情を考えて話し合う。 ・その場の状況に応じて伝え方を工夫する。

④　外部研修

・各ブロック１名程度，外部の公開研究会等の研修会に参加し，本校の研究に生かしていく。

・できるだけ国語科や本校の研究に関連ある内容の研修を選択する。

（コロナの様子を見ながら）

２ 校内研究体制

学校教育目標
自立できる子どもの育成
～かしこく　やさしく　たくましく～

研究主題
『自ら学ぶ力の育成』
～「主体的・対話的で深い学び」の視点からの国語科の授業づくり～

	低学年チーム	高学年チーム
メンバー	１年・２年・３年・な１・な３ ７年（教頭・栄養）	４年・５年・６年・な２ ７年（校長・養護）
授業研究日	（　　）年　：　６／８ （　　）年　：　６／２２ （　　）年　：　７／６ （　　）年　：　９／７ （　　）年　：　９／１４	（　　）年　：１０／１２ （　　）年　：１０／２６ （　　）年　：１１／１６ （　　）年　：　１／２５

体づくり部	**心づくり部**	**技づくり部**
テーマ【体力向上】	**テーマ【学校生活】**	**テーマ【学力向上】**
【取組内容】 ①望ましい生活習慣づくり 早寝・早起き・朝ご飯・家庭学習 ↓ 意識化（啓発・点検） ②体育・行事の改善 ③食育の推進 ④保健教育の推進　　など 検証：体力テスト，生活点検	【取組内容】 ①読書活動の推進 ②異年齢集団による活動 ③人権教育の充実 ④規範意識の醸成 ルール徹底・あいさつ・整頓・環境整備・清掃活動 ⑤ハート通信・ハートコーナーなど 検証：Q-U 調査　意識実態調査（北 B）	【取組内容】 ①計画的な研究推進 （研修スケジュール・PDCA サイクル化） ②学習規律の徹底 ③評価の見直し ④必達基準作成・点検 ⑤家庭学習の充実 ⑥単元テスト ⑦音読　　など 検証：学力調査

３ 研究の構想

研究主題　　自ら学ぶ力の育成

【授業の中でめざす子どもの姿】

◎一人ひとりの考えを深めていくための対話的な学びの工夫

① 主体的に課題に取り組んでいる
② 自分の考えを，根拠を持って表現している
③ 友だちの考えを自分の考えや今までの学習と関連付けて聞いている
④ 自分の考えを深めたり広げたりしている

【研究仮説】

何を学ぶかという「目的意識・課題意識」を明確にした単元構成を工夫し，学んだことをもとにして自分の考えをまとめ表現する言語活動を授業の中に意図的に組み込んでいけば，学ぶ目的が明確になり，主体的に課題解決に取り組み，目的に応じて表現する児童が育つであろう。

【研究の内容】

(1) 身に付けたい資質・能力を明確にした単元構成の工夫

(2) 最適な言語活動の設定

(3) 日常的な活動や環境づくり

【研究の方法】

（１）授業研究
・１人１回の研究授業
・講師を招聘して，授業力を高める指導の在り方などの研修を行う。
（２）ブロックや部会の充実
・ブロック（低・高）で事前に教材研究、指導案作成をしたうえで、全体で事前研（模擬授業を含む）を行い、授業の視点を明確にし、研究授業に臨むようにする。
・学力を支える基本的生活習慣や基礎学力の定着に向けた取組を進める。

【検証方法】

・教師間や児童による授業評価を行い、改善に生かす。
・校内研アンケートを実施し、取組を検証する。
・各種調査で児童の実態を把握し、実践に生かす。

研究計画【令和４年度】（第１水：職員会/第２・３・４水：校内研）

月	日	内　　容
4	１日（金）	今年度の研究内容・計画提案協議
	４日（月）	授業研等年間予定・研究テーマ
	５日（火）	部会からの提案
	１３日（水）	授業研年間計画決定，指導案様式・スタンダード・講師依頼計画
	２０日（水）	ブロック研・部会
5	１１日（水）	①（　）年　教材研　※講師
	１８日（水）	ブロック研・部会
	２５日（水）	②（　）年　教材研　※講師
6	１日（水）	ブロック研・部会
	８日（水）	①（　）年　研究授業「　　」
	１５日（水）	③（　）年　教材研　※講師
	２２日（水）	②（　）年　研究授業「　　」
	２９日（水）	全国学テ分析
7	６日（水）	③（　）年　研究授業「　　」
	１３日（水）	ブロック研・部会
	２１日（木）	④（　）年　教材研　※講師
	２７日（水）	⑤（　）年　ブロック教材研　※講師
8	２４日（水）	⑥（　）年　ブロック教材研　※講師
9	７日（水）	④（　）年　研究授業「　　」
	１４日（水）	⑤（　）年　研究授業「　　」
	２１日（水）	ブロック研・部会
１０	５日（水）	⑦（　）年　教材研　※講師
	１２日（水）	⑥（　）年　研究授業「　　」
	１９日（水）	⑧（　）年　教材研　※講師
	２６日（水）	⑦（　）年　研究授業「　　」
１１	９日（水）	ブロック研・部会
	１６日（水）	⑧（　）年　研究授業「　　」
	３０日（水）	⑨（　）年　教材研　※講師
１２	１４日（水）	ブロック研・部会
1	１８日（水）	ブロック研・部会
	２５日（水）	⑨（　）年　研究授業「　　」
2	８日（水）	ブロック研・部会
	１５日（水）	県版学テ・標準学力調査分析
3	８日（水）	ブロック研・部会

４ 研究内容

授業改善を進めていくために，国語科の授業スタンダード，板書スタンダード，実際

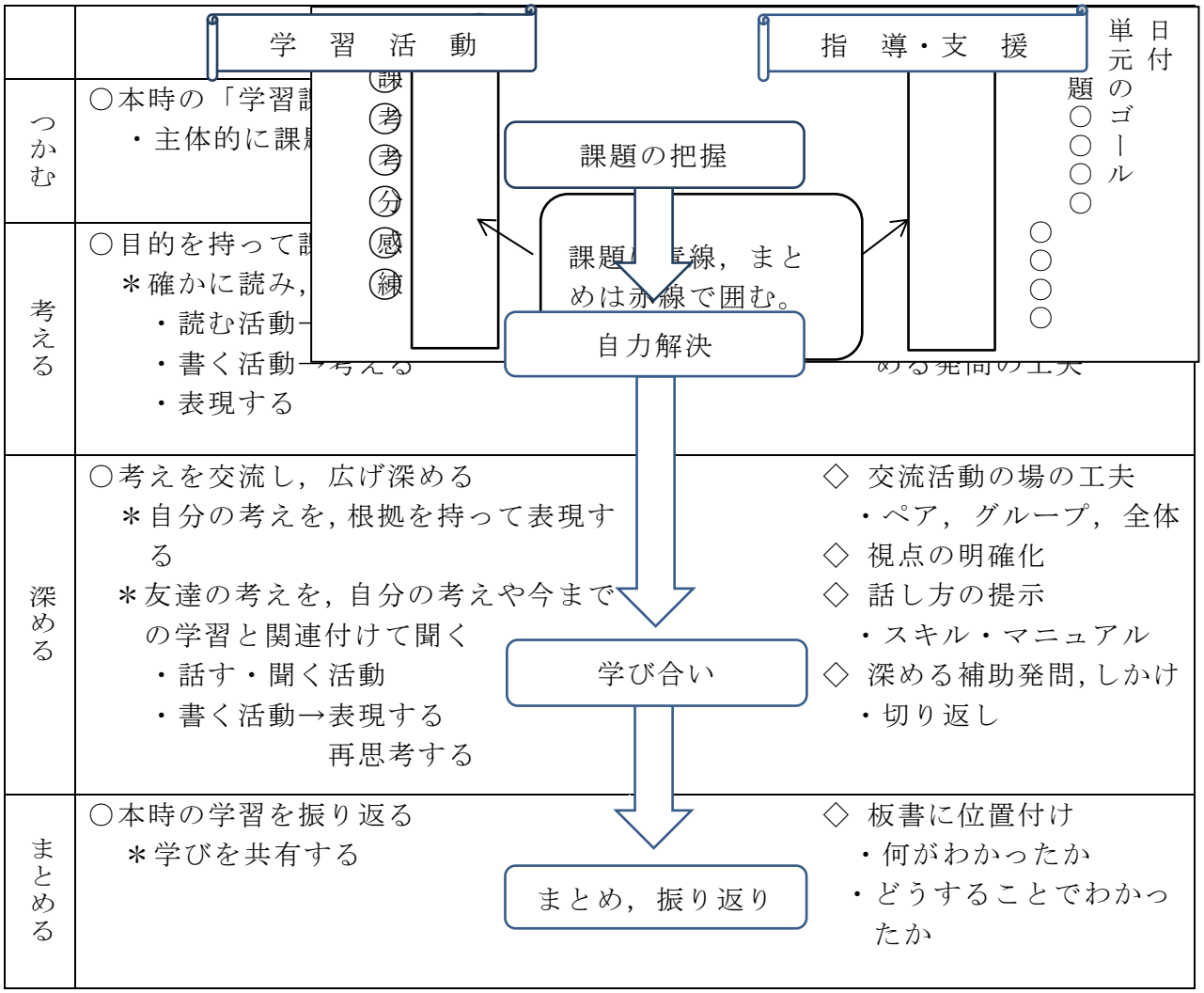
の板書等を確認する。

（１）授業スタンダード

【国語科】

①授業スタンダード

〈板書スタンダード〉



学習の流れを可視化するために，カードを掲示しておく。

②単元構想図

＜単元の構想＞　単元名　和の文化について調べよう

教材名　「和の文化を受けつぐ―和菓子をさぐる」（東京書籍　五）

和の文化を受けつぐ～和菓子をさぐる～

☆必要な情報を見つける☆
☆資料を使って説明する☆

＜和の文化の
（　リーフレット　）
を作ろう＞

１．学習の見通しを立てよう。

・身の回りにある「和の文化」って？
・グループで「和の文化」について調べ、（　リーフレット　）を作るという見通しをもつ。

２～６.「和の文化を受けつぐ」を読んで筆者の説明の仕方を読み取ろう。

・全文を読んで、筆者の「和の文化」に対する考えと文章構成を読み取る。
・筆者が和菓子について、どのような観点から説明しているのか読み取る。
・よりくわしく説明するためにどのような資料を活用しているか考える。

７～１３.「和の文化」について調べ、情報を整理し（　リーフレット）を作ろう。

・計画にそってグループで分担して調べ、設定した観点に必要な情報を集める。
・選んだ情報と資料を使って、報告の文章を書く。
・完成した（　リーフレット　）を見合う。